

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0172000952		
法人名	有限会社グループホーム幸		
事業所名	グループホーム幸 1階りんご		
所在地	北海道小樽市清水町20番9号		
自己評価作成日	2025年12月20日	評価結果市町村受理日	2026年3月12日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者が安心、安全にホーム生活が営むことが出来るように一人一人の気持ちを大切にし、ケアを行っている

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action.kouhyou_detail.022.kani=true&JigvosyoCd=0172000952-00&ServiceCd=320&Type=search
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン		
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F		
訪問調査日	2026年1月31日		

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「グループホーム幸」は、小樽駅からバスで10分程の清水町にある2階建て2ユニットの事業所である。広い敷地には花壇や畑もあり、季節に応じた花々や野菜の生育状況を見ながら散歩を楽しむことができる。居間と食堂は大きな窓から光が注いでいる明るい空間で、利用者が過ごしやすいように家具類の配置にも工夫した一般住宅のような造りになっている。代表者と管理者を中心に、全職員で利用者一人ひとりに寄り添いながら思いや意向をくみ取り、その方らしい日々が過ごせるように丁寧なケアに取り組んでいる。冬季以外は毎日庭や近隣を散歩して気分転換したり、ラジオ体操、カルタや風船バレー、コーラスやレコード鑑賞など多彩なレクリエーション活動を積極的に行っている。運営推進会議は町内会関係者や行政職員、家族などの参加を得て、入居者状況を詳細に報告するとともに、インシデントと改善策、事例検討などを取りあげて開催している。日々の申し送りなどで職員の意見や提案を聞き取り、運営やケアに活かして働きやすい職場環境の整備に努めており職員の離職率も低くなっている。健康状態について詳しい説明が必要な通院には職員が同行するなど、医療面でも充実した対応を行っている。各利用者の些細な体調変化に気を配りながら、家庭的で温かなケアに取り組んでいるグループホームである。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1階りんご)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	利用者が朗らかに過ごせるよう、日々理解して努力し必要なサービスか管理者と職員で相談している。	事業所独自の理念に「地域との交流を図ります」という、地域密着型サービスの意義を踏まえた文言が含まれている。玄関に掲示し、日々の申し送りで理念にそったケアを行うように話をしている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	民生委員との交流や排雪場所の提供、朝の挨拶を日常的に行っている。	手宮祭りに出かけたり、お祭りの神輿を事業所の前で見学している。老人クラブの会長が、利用者に会いに来てくれることもある。散歩の時に、近隣の方と挨拶を交わしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	会議などで意見できれば認知症ケアについての情報を伝えている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議を定期的に関き、外部の専門家と意見を交換している。会議において特に問題になることは事故や日常生活のヒヤリハットをいかに防ぐか問題視され、改善方法を話し合っている。	町内会や老人クラブの会長、市役所や地域包括支援センター職員、家族が参加し年6回開催している。入居者状況やインシデントと改善策、事例検討などを行っている。電話で家族に出席を依頼しているが、全家族に議事録は送っていない。	全家族に、会議内容が分かるような議事録を送付するよう期待したい。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市からの指導されたことはすぐに改善しサービス向上に努めている。	利用者の経費の支払いや生活保護受給者のおむつ代の補助に関する手続きについて、市役所に相談している。介護保険課と連絡を取ることも多く、何かあればすぐに相談できる関係を築いている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	基本的には身体拘束をしない方向で取り組んでいる。	禁止の対象となる具体的な行為を記載した「身体拘束に関する指針」を整備し、朝の申し送りでも拘束について確認している。委員会と勉強会は朝夕の申し送りの時間帯で行っているが、実施記録と議事録が不十分なので、今後は分かりやすく整備したいと考えている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	内部研修にて虐待防止について学び、管理者と職員で虐待がないか注意している。		

グループホーム幸

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1階りんご)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性に関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	自立支援においては保健所、成年後見制度においては包括支援センターの中に後見制度を利用している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前に利用者や家族などに十分な説明を行い理解を頂いてから入居して頂いている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者や家族等から意見や要望があれば、運営に反映できる様傾聴している。	面会時や電話で利用者の様子を伝え、家族から意見や要望があれば連絡ノートに記録している。写真にコメントを添えた「幸便り」を作成して家族に送っている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	代表者及び管理者は申し送り時に意見を交換し、協議内容を運営に反映している。	毎日の申し送りで話し合うことが多く、職員の意見や提案が日々のケアに活かされている。職員からの意見や提案はすぐに話し合い、決まったことは連絡ノートに記入して全職員で情報を共有している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は従業員の給料待遇、労働時間に配慮し、より良い職場になる様職員待遇に配慮している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月内部研修を行い、サービスの品質向上に努力している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部研修や勉強会には参加し、管理者は同業者と交流している。		

グループホーム幸

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1階りんご)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービスの利用食は不安な点も多いので、信頼を得られる様心がけ、不安の解消や要望を傾聴するようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前に家族と管理者が面談し、十分な話し合いを行い、不安などの解消に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	家族が一番問題にする事は受診の付き添いをしてくれるかという意見が多いが、家族が出来る人にはお願いしている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は日常の挨拶やレクリエーションを通じ、コミュニケーションを取り、利用者と信頼関係を築ける様努力している。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族へは利用者のホームでの様子を伝えている。本人と家族との絆を大切にしながら本人の以降の表出が困難な場合は家族と共に本人本位で今後を考えていく。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	以前交流のあった知人や友人から電話や便りがある場合、近況を知らせてはどうかと声をかけている。面会者は利用者の居室にて談話して頂いている。	近所に住んでいた方が面会に来たり、電話で話している利用者がある。職員と一緒にデイサービスの友人に会いに行った利用者もいる。家族と外食に出かけることもある。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	体操、レクリエーション、食事、おやつは利用者同士が関わられるようにデイルームを提供している。		

グループホーム幸

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1階りんご)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居された利用者や家族にも必要があれば相談や支援に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日頃の会話の中から利用者の思い、希望を傾聴し、意向の把握に努めている。	会話や仕草、表情などから思いや意向を把握している。読む力が残っている方には、文字に書いて話しかけることもある。アセスメントシートに興味と嗜好の項目を設けて記録している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ホームでの生活は単調になる傾向があるので、以前の生活を聞き、生活環境の改善に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	朗らかに暮らせるように関わりを持ち、スタッフは記録を残し情報共有に努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日々の生活は介護計画に基づいて実行しなければならぬと思っており、本人の持つ課題とケアについてスタッフ間で話し合い、家族への面会時を利用して意見を確認し、計画作成の参考としている。	計画作成担当者が申し送りや業務の中で職員の意見や提案を聞き取り、3か月ごとに介護計画を作成している。可能な限り具体的に本人の意向を聞き取り、介護計画に反映させている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	入居者の個別の記録を残し、スタッフ間での意見交換を行いケアの実践と見直しに努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族の差し入れをおやつとして本人の希望通りお出しするなど可能な限り利用者のニーズの対応を試みている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	日用品を地域の業者に依頼したり、近くのケーキ店を利用している。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	往診をお願いしたり、受診したり、医師の指示を守り医療支援を行っている。	協力医療機関による訪問診療を受けている方と、かかりつけ医を継続している利用者がいる。家族と一緒に受診する時は口頭で状況を伝え、詳しい説明が必要な場合は職員も同行している。受診状況は個別に記録している。	

グループホーム幸

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1階りんご)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	管理者が看護師であり、体調、精神面の変化があればすぐに報告相談するようにしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入居の際、必要なものはすぐに用意届け、本人の家族にも連絡を行い、病院と情報交換を行っている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居者、本人、家族と看取りにおいて、意見を聞き、共有している。	利用開始時に「重度化した場合の対応に係る指針」にそって、事業所の対応について説明している。利用者の体調変化に応じて家族と医師、事業所で方針を話し合い、希望に応じて看取りも行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	看護師の管理者が内部研修やインシデント発生時の機会にヘルパーへ指導を行っている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	ホーム内での避難訓練を3か月に1回、消防署立ち合いの訓練を年2回行い、非常通報装置で地域の方にも連絡が行くようにしている。	年2回、消防署の協力の下に昼夜の火災を想定した避難訓練を実施しているが、地域住民は最近参加していない。ケア別の対応について話し合っている。近年、地震想定訓練は行っていない。	年1回は地震からの火災など、自然災害を想定した避難訓練の実施を期待したい。また、地域住民の協力を得た避難訓練の実施も期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者の会話、関わりの中で言葉遣いには十分注意し、対応している。	言葉かけに関し、必要時に管理者が即座に具体的な助言を行っている。利用者の居ない所で申し送りを行い、個人記録類は事務所に保管している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日頃より本人の希望があれば、問題行動や危険がなければ本人の意向を尊重し実行できるものがあれば対応する。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事の所作が遅くても本人のペースを大切に見守り介助している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	訪問サービスをしてくれる地元の美容師が隔月で散髪し、日曜日にはヘルパーが正常介助を行っている。		

グループホーム幸

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1階りんご)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	調理は職員が行っているが、下膳の一部は利用者が行っている。管理者が入居者と同じ食事を食べる事によって好みや味が理解し合える。	食材会社作成の献立を使用している。誕生日には利用者好みの肉やケーキなどでお祝いしている。利用者と一緒に、ホットケーキやフルーツ風味のムース状デザートなどを作り楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	主食の量、1日の水分量を決め、施設向け調理キットを業者から購入している。業者の管理栄養士が1日1600kcalをキープしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	本人の能力に応じて声を掛け、誘導、介助を毎食後に行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄パターンを導き、誘導を試みている。	自立している方もいる。昼夜共に可能な限りトイレを使用している。個別の排泄チェック表を使用し、個々の状況に合わせた声かけ誘導を行うことで失敗を減らしている。状況によりポータブルトイレを使用する方もいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日の水分量と排便記録を残し、下剤調整を行っている。毎日おやつにはよーぶるとを摂取して頂いている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	基本的には曜日は決めているが、本人が希望すればいつでも入浴できるよう対応している。	日曜日以外を中心に、一人当たり週2回の入浴を支援している。入浴順の希望に配慮し、好みの入浴剤を使用している。季節や気温に応じて入浴時間帯を変更するなど、利用者の希望に可能な限り対応して入浴を楽しめるように工夫している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人の状況により、居室で休息して頂き、安眠できない時には傾聴し、原因の解決を行う努力をしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人の介護記録に薬局からの薬の説明をファイルし、作用、副作用が把握できるようにしている。与薬前には複数人で確認し、症状の変化があれば管理者に報告している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日常会話を通じて本人のやりたい事などを伺っている。またレクリエーションや飾り付けで季節感を楽しめるよう努めている。		

グループホーム幸

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1階りんご)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	5月～10月の間、天気が良ければ毎日裏庭を散歩できるよう支援している。また、家族の支援で外出されることもある。	天候の良い日は町内や敷地内の花壇、畑の野菜の生育状況を見ながら散歩している。手宮祭りに出かけた後、天狗山方面へのドライブ、花見や紅葉見学で手宮公園に出かけている。畑の野菜の手入れや収穫作業などでも外気に触れる機会を設けている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	外出時は本人の能力に応じ、必要ならお金を渡し、買物を楽しんで頂いている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望に応じ、電話、手紙で連絡できるよう常に支援している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	各居室に温湿度計を置き、時間ごとにチェックを行い、適切な温湿度を維持できるよう工夫している。また、ホーム庭は広く、居室や食堂から見える庭は季節感を強く感じられ、居心地の良い空間になっている。	大きな窓に面しており、室内から四季の移り変わりが楽しめる。明るく開放的な居間を中心に、自宅のような安心感のある共用空間が作られている。季節の手作り装飾なども施されており、家庭的な温もりが感じられる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	空間における居場所を求める方は一人食堂の椅子に座り、窓より外を見られている時が多い。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	安全に配慮した上で本人や家族等の希望に沿った居室になるよう支援している。	居室には、エアコンと温湿度計が完備されている。テレビなどの家電製品を設置したり、ローチェストなどの家具類、ぬいぐるみや写真等を飾り付けている方もいる。個々に合った居心地よく過ごせる居室が作られている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	バリアフリーの造りになっており、一本の廊下に居室及びトイレが並んでいる。居室における生活は本人が安全であれば自由に振る舞って頂いている。		

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0172000952		
法人名	有限会社グループホーム幸		
事業所名	グループホーム幸 2階みかん		
所在地	北海道小樽市清水町20番9号		
自己評価作成日	2025年12月15日	評価結果市町村受理日	2026年3月12日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

毎日健康に過ごせるよう早期発見早期受診に心掛けると共に機会あるごとにコミュニケーションが
取れるよう関わりを大切にしている。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action.kouhyou_detail_022_kani=true&JigyouSyCd=0172000952-00&ServiceCd=320&Type=search
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	2026年1月31日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) ○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19) ○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) ○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) ○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) ○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12) ○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う ○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2階みかん)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	日々健康が変化する利用者の身体状況を把握するとともに楽しい関わりを多く持てるよう心掛けている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	排雪場所及びホームの敷地を町内の車が通れるように提供している。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ホームの見学時、認知症の人の理解を頂くため、ホームでの実践したことを説明している。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ホームの日常生活を紹介したり、事例を通し、今後の認知症のケアに対する方向を話し合っている。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	生活保護を受けている利用者さんにはサービス内容が理解できない時があるので協力を得るように心掛けている。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束はしないことを踏まえ、身体に危険な行為に発展する時は家族とよく相談し、方向を明確にしている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	暴力行為までいかない暴言などに対してもその行為を感じられたらすぐ管理者に報告し対応している。		

グループホーム幸

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2階みかん)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	日々日常生活において、できる限り自立できるように見守りを中心にケアをしている。成年後見制度は地域包括より学ぶ機会がありヘルパーに話しかけている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居する時、契約する前に運営規程等を中心に説明し、不安や疑問点を尋ね、納得のいくよう疑問があればいつでも連絡してくださいと話しかけている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	最近物価高に対する意見要望を聞く機会がある。特にクリーニング代が問題になる時があるので理解を得られるよう話し合いをしている。		
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	朝の申し送り時利用者のことだけでなく、ホーム運営管理などについて話し合っている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	基本時給が低く向上心を持って働ける状況ではない。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	日々のケアについての反省方向実践については機会ごとに行っている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	ホームの方向づけや疑問を感じる事があれば同業者の意見を聞いている。		

グループホーム幸

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2階みかん)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居時において不安感が強く訴える方には家族に来て頂いたり電話で声を聞いてもらっている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居時家族に不安が出てきた時、時間月日に関係なく連絡してくださいということを初期に話している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居時入居を希望した理由を聞き、ホームの方針などを理解して頂ける様にしている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日中を通し、出来る限り関わりを多く持つよう努めている。本人の家族のこと、昔の仕事のこと、兄弟の話など		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ホームは第二の家庭になれるよう本人の希望を大切に、家族の協力を得られるよう努めている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人が長い人生において過ごした過去を聞くだけでなくホームでの生活をどのように過ごしていくかを話している。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	デイルームにおいて、互いの気持ちをぶつけあうだけでなく、仲良く話の場になるよう職員が中に入って関わるようにしている。		

グループホーム幸

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2階みかん)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ホームを退居しても必要に応じて連絡があればフォローし相談に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居時において、本人の希望より家族の希望で入居せざるを得なくなった入居者がおられる。その場合、特に時間をかけ希望を聞き入れる工夫を行っている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	自分の生活歴を常に悲観し、周囲の人に言い続ける人があるが、本人の過ごした良かったことを聞くようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	1日2回のバイタル測定を通じ、心身状態の把握、日常生活の会話を通じ有する力などの現状を確かめている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日常生活の把握、バイタルサインにおける問題点、病院受診、往診における医師の助言などをふまえ、介護計画を本人家族、職員の意見を聞きながら作成している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の関わりの中でケアを通じ、会話の中で気づきが大切であり、個人で解決せず管理者に報告することを忘れてはいけない。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	個々の利用者、正確にこだわらず、日々のニーズに対応できるように職員全員で話し合った方向を一つにして対応していくことが大切である。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	日々の中でホームの中で過ごす生活ばかりでなく、庭散歩やドライブなどを通じ気持ちを優和になるような支援をしたい。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医は決まっているが、治療に納得がいかない時、医師とよく相談し、紹介状を書いて頂いている。		

グループホーム幸

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2階みかん)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職員は入居者の指針に異常を感じたら自分だけの考えで行動せず、必ず看護師に報告するよう日頃より話しかけている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時、情報交換は病院のケースワーカーが中心になって行っており、必要であれば治療、現在の状況、退院などについて話合っている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時、重度化や終末期におけるケア及び方針はどのように考えているかを家族とよく相談し、納得のいく方向を決めている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変や事故発生はまず看護師に連絡する。看護師の指示に基づいて行動をする。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回消防職員の指導を受けている。火災は初期消火が大切なので消火器訓練には力を入れている。		

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人一人の人格をよく把握し、言葉遣いには特に注意している。理解されない時には時間をおいて別の職員が対応している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人が納得して入居された方であればホーム入居に対する不満は感じられないが、そうでない方は思いや希望が強い。関わりを多く持ち、納得して頂けるようあ関わる時間を多く持つよう努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	最低限度の決まりはあるが、それ以外は自由に一日を過ごして頂いている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	全員が女性なので、自分の思い通りの服装で一日を過ごしてもらっている。		

グループホーム幸

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2階みかん)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	90歳を過ぎた入居者がほぼ全員で一緒に準備することはできないが、食事を作るヘルパーが違うので味の変化もあり、入居者さんにはおいしいとひょうばんです。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食材は一日1600kcal(牛乳ヨーグルト別)とし、管理栄養士が日々の献立を考えている。水分量は1日1600ccを目標として飲んで頂いている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食事後、自力で歯のケアができる方は自力で、介助が必要な方はヘルパーが口腔ケアを介助している。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄はできる限り自立できるように指導を行っている。失禁のある方は失禁時間をチェックし、日夜を問わず声をかけ自立排尿できるよう声かけている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便2日出ないと病院処方の下剤を飲んでもらい対応している。イレウス傾向の強い方は浣腸で対応している。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	週2回入浴日は決めているが、本人の希望があれば曜日時間を変更して入浴して頂いている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中は本人の自由時間なので休息はいつでも行って頂いている。レクリエーション、おやつ時間などは声かけている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬は食後の時が多いが、何のための薬かを短く説明し副作用がないか時々聞いている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	毎日の生活で自分の趣味はぬり絵や音楽が中心で音楽を聴きながら寝ている人も数人おられる。		

グループホーム幸

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2階みかん)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	春夏秋等はドライブを行っている。家族の協力があれば外出、外泊は自由です。天気の良い日は庭散歩をしている。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入居者には金の大切さはよく理解している。中には500万円あるはずだと時々訴える人もいる。お金の所持は紛失の恐れが強いので所持されていません。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話や手紙は自由に行っている。しかし、本人、家族、ホームと話し合い、一日一回等時間を決めて実践している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用場所はデイルームが中心で居室で退屈になればデイルームに集まって気の合ったもの同氏が会話している時が多い。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	デイルームにおいて食事以外どの椅子に座ろうと自由であるので話しの内容があれば自由に椅子を利用して会話している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は本人が自由に使える場所であり、居心地が悪くなればベッド、ローチェストなどの場所を変えている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活を送れるように工夫している	高齢になれば、歩行状態が悪くなり、転倒の恐れが出てくる。早くから状況を察知し、歩行器等の用具を準備している。		